

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立御殿場高等学校

静岡県御殿場市御殿場192-1

電話<0550>82-0111

FAX <0550>83-3154

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	28
学校施設の概要	29
在籍生徒調	31
入学志願者及び入学者数調	32
卒業生の動向調(高等学校用)	33
生徒の状況	35
授業料収納状況調	36
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	37
預金調	38
郵便等受払調	39
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	40
委託料に関する調	42
負担金支出調	44
建築工事調	47
公有財産調	48
借地借家等調	50
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	52
行政財産貸付・使用許可調	53
普通財産・借受財産等貸付調	55
主要備品調	56
職員調	57
職員の年齢調	60
健康管理	61

事務事業の概要

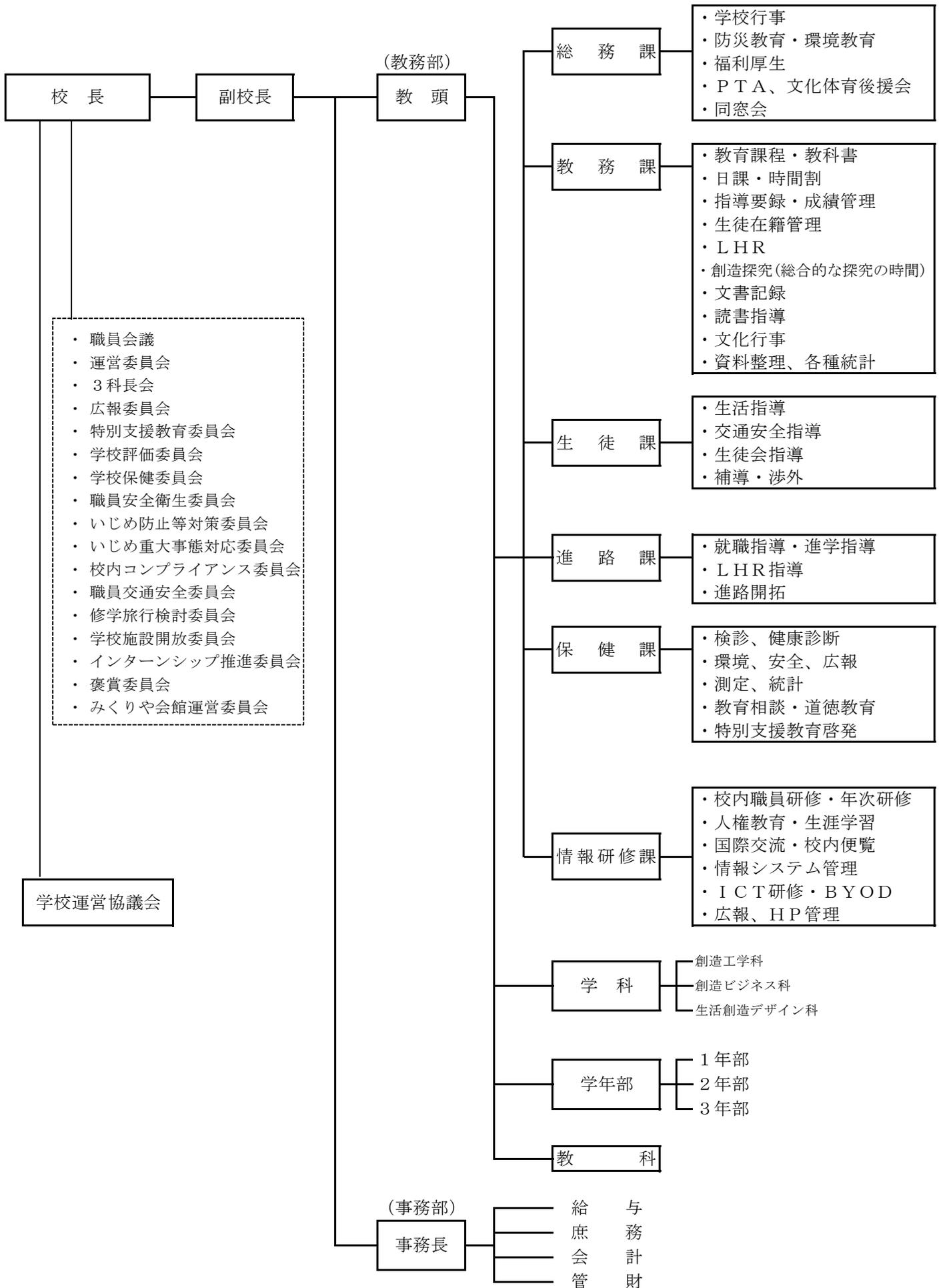
1 概況

(1) 学校の沿革

明治34年12月7日	設立許可、御厨町外10ヵ町村学校組合立御殿場農業学校と称する。
明治35年4月1日	開校
明治36年3月25日	農商補習学校設置
大正元年11月29日	駿東郡御厨町外9ヵ町村学校組合立御殿場農学校と改称する。
大正3年4月1日	女子部を設置し御殿場実業学校と改称する。
大正8年3月25日	御殿場町外9ヵ町村学校組合立御殿場農学校と改称する。また女子部を分離し、御殿場実科女学校と称する。
大正11年4月1日	甲種に合格。御殿場実科女学校を合併し、御殿場実業学校と改称する。
大正12年4月1日	県立移管、静岡県立御殿場実業学校と改称する。
昭和8年4月1日	女子部終業年限を4ヵ年（尋卒）に延長する。
昭和9年4月1日	男子部第2種5年制（尋卒）を新設する。
昭和10年9月1日	本校併設の青年学校を県立御殿場農業青年学校と改称する。
昭和23年4月1日	学制改革により静岡県立御殿場高等学校と改称され、農業課程300人、商業課程150人、普通課程300人となる。
昭和23年9月1日	定時制課程新設、本校に中心校（昼間制の普通課程と農業課程）、小山町に小山分校（夜間制普通科生徒定員80人）を設置
昭和26年3月1日	定時制中心校生徒募集停止
昭和30年1月1日	全日制課程の定員改正、家庭課程が新設され、生徒定員を農業課程300名、商業課程300人、普通課程・家庭課程合わせて450人とする。 定時制小山分校（普通課程）160人となる。
昭和32年2月8日	生徒定員改正、農業課程150人、商業課程450人、普通課程・家庭課程合わせて450人となる。
昭和37年4月1日	生徒定員、農業課程150人、商業課程450人、普通課程・家庭課程と合わせて500人。定時制小山分校160人となる。
昭和38年2月7日	全日制普通課程募集停止。家庭課程を家政科と改称し、生徒定員を農業科50人、商業科250人、家政科150人とする。 定時制小山分校40人と定める。
昭和41年2月7日	全日制農業科募集停止。全日制生徒定員商業科250人、家政科150人と定める。
昭和43年4月1日	農業科募集停止にともない生徒定員を次のように定める。 商業科288人、家政科96人
昭和44年2月15日	校舎、体育館兼講堂落成記念式典挙行
昭和44年4月1日	生徒定員を商業科新1年から1クラス減にともない、次のように定める。 商業科235人、家政科94人
昭和45年4月1日	生徒定員を次のように定める。商業科230人、家政科92人
昭和46年10月26日	創立70周年記念式典挙行
昭和47年4月1日	生徒定員を経理科設置にともない、次のように定める。 商業科90人、経理科135人、家政科90人
昭和51年4月1日	生徒定員を、商業科・経理科一括募集につき、次のように定める。 商業科・経理科225人、家政科90人
昭和54年4月1日	商業・経理科を廃止し、生徒定員を次のように定める。 商業科225人、家政科90人

昭和 54 年 12 月 24 日	運動場夜間照明施設設置
昭和 55 年 4 月 1 日	商業科新 1 年から 1 クラス増につき、生徒定員を次のように定める。 商業科 270 人、家政科 90 人
昭和 56 年 2 月 23 日	西館落成
昭和 56 年 11 月 1 日	創立 80 周年記念式典、みくりや会館落成式典挙行
昭和 60 年 3 月 31 日	小山分校閉校。(昭和 60 年 4 月 1 日小山高校定時制課程に移管される。)
昭和 60 年 4 月 1 日	商業科新 1 年から 1 クラス減につき生徒定員を次のように定める。 商業科 225 人、家政科 90 人
平成 3 年 4 月 1 日	商業科新 1 年から 1 クラス減につき生徒定員を次のように定める。 商業科 180 人、家政科 90 人
平成 3 年 11 月 1 日	創立 90 周年記念式典挙行
平成 4 年 4 月 1 日	新 1 年生から学科改編に伴う名称変更。生徒定員を次のように定める。 情報システム科(工業に関する学科)を新設し 80 人、 商業科が情報ビジネス科(商業に関する学科)に変更し 135 人、 家政科が情報デザイン科(家庭に関する学科)に変更し 40 人
平成 5 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 情報システム科 80 人、情報ビジネス科 129 人、情報デザイン科 40 人
平成 6 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 情報システム科 80 人、情報ビジネス科 126 人、情報デザイン科 40 人
平成 7 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 情報システム科 80 人、情報ビジネス科 123 人、情報デザイン科 40 人
平成 8 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 情報システム科 80 人、情報ビジネス科 120 人、情報デザイン科 40 人
平成 13 年 10 月 12 日	創立 100 周年記念式典挙行、国際交流・みくりや育英基金事業開始
平成 17 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 情報システム科 80 人、情報ビジネス科 80 人、情報デザイン科 40 人
平成 22 年 3 月 25 日	エネルギー関連教育事業により、ハイブリット発電機(風力、太陽光)設置
平成 23 年 10 月 22 日	創立 110 周年記念行事
平成 24 年 2 月 29 日	第 2 体育館建替
平成 26 年 1 月 27 日	第 2 グラウンド完成
平成 27 年 3 月 25 日	創立 110 周年記念事業、みくりや会館落成式典挙行
平成 30 年 4 月 1 日	新 1 年生から学科改善に伴う名称変更。生徒定員を次のように定める。 創造工学科(工業に関する学科)に変更し 80 人、 創造ビジネス科(商業に関する学科)に変更し 80 人、 生活創造デザイン科(家庭に関する学科)に変更し 40 人
令和 3 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 創造工学科 80 人、創造ビジネス科 40 人、生活創造デザイン科 40 人
令和 3 年 11 月 12 日	創立 120 周年記念式典挙行
令和 5 年 4 月 1 日	生徒定員を次のように定める。 創造工学科 40 人、創造ビジネス科 40 人、生活創造デザイン科 40 人

校務運営組織図



2 目指す学校像

(令和6年度)

(1) スクール・ミッション

三つの専門学科（工業科・商業科・家庭科）を併設する県内でも特色ある学校として、三学科併設の環境を生かし、自分の専門性を高めながら、他学科の生徒と交流し、より深い教養を身につけることを通して、北駿地域の未来を創り支える人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー

- (1) 専門的な知識・技能のほか、創造性やコミュニケーション能力を身に付けた次代を担うスペシャリストを育成する。**(創造性・コミュニケーション能力)**
- (2) 自ら課題を発見し、解決のために主体的に行動できる力を育成する。**(課題解決力・主体性)**
- (3) 多様な価値観をもつ人々と協働して新しいことに取り組んでいく力を育成する。**(協働・挑戦)**
- (4) 健全な心身のもと、社会で通用するマナー・モラルを身に付けた人材を育成する。**(健全な心身・人間性)**
- (5) 地域に根ざし、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。**(地域貢献)**

カリキュラム・ポリシー

【学校全体】

- (1) 積極的なICT活用を通して、協働的な学びと個別最適な学びを支援するとともに、習熟度別集団や少人数集団を設置することで、きめ細やかな学習指導を行う。
- (2) 2年次、3年次に共通選択科目を開設し、科を横断した授業を選択できるようにする。
- (3) 「総合的な探究の時間」やインターンシップ等を通して、進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。
- (4) 生徒が主体となったホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を実施する。
- (5) 社会人講師による授業や実習をとおして、実践的・体験的活動の機会を設ける。

【創造工学科】

- (1) 1年生で工業に関する基礎知識を幅広く学び、2年生からコース(機械・電気)を選択する。
- (2) 各種検定資格の取得、技能講習の受講、競技会への積極的な参加を奨励する。
- (3) 工場見学など地域との連携による職場体験学習を通じて、実践的職業能力の向上を目指す。

【創造ビジネス科】

- (1) 1年生で商業に関する基礎知識を幅広く学び、2年生からコース(マネジメント会計・メディア観光)を選択する。
- (2) 各種検定資格の取得、地域イベントの企画・運営、外部コンテストへの参加等を奨励する。
- (3) 地域(御殿場市など)や企業などと積極的に連携し、現実的な課題解決に取り組むことで、より実践的・体験的な活動を行う。

【生活創造デザイン科】

- (1) 3年間をとおして、食物、保育、被服に関する専門的な知識技術を学ぶ。
- (2) 各種検定資格の取得や外部のコンテスト等への積極的な参加を奨励する。
- (3) 学びを活かし、地域に貢献する実践的・体験的な活動を行う。

アドミッション・ポリシー

- (1) 基本的な学習習慣や生活習慣が身に付いている生徒
- (2) 専門分野を学ぶことに強い興味・関心があり、資格取得の意欲がある生徒
- (3) 学校生活に積極的に取り組み、新しいことに挑戦しようとする生徒
- (4) 思いやりの心を持ち、仲間と協働して粘り強く目標達成のために努力しようとする生徒
- (5) 地域や社会に関心を持ち、その発展に貢献したいという意欲のある生徒

(3) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア ICTを効果的に活用することにより、生徒自らの学ぶ意欲と創造性を育成する。
- イ 自ら考え、主体的に行動する有徳の人を育成する。
- ウ きめ細やかな指導を行うことにより健全でたくましい心身を育成する。
- エ 地域連携とキャリア教育を充実することにより、正しい職業観や政治的教養を醸成する。
- オ 生徒が安心して学習できる教育環境を整備する。
- カ 教職員の働き方について適正化を図ると共に、教職員間の同僚性を構築する。

(令和7年度)

(1) スクール・ミッション

三つの専門学科（工業科・商業科・家庭科）を併設する県内でも特色ある学校として、三学科併設の環境を生かし、自分の専門性を高めながら、他学科の生徒と交流し、より深い教養を身につけることを通して、北駿地域の未来を創り支える人材の育成を目指す。

(2) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー

- (1) 専門的な知識・技能のほか、創造性やコミュニケーション能力を身に付けた次代を担うスペシャリストを育成する。**(創造性・コミュニケーション能力)**
- (2) 自ら課題を発見し、解決のために主体的に行動できる力を育成する。**(課題解決力・主体性)**
- (3) 多様な価値観をもつ人々と協働して新しいことに取り組んでいく力を育成する。**(協働・挑戦)**
- (4) 健全な心身のもと、社会で通用するマナー・モラルを身に付けた人材を育成する。**(健全な心身・人間性)**
- (5) 地域に根ざし、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。**(地域貢献)**

カリキュラム・ポリシー

【学校全体】

- (1) 積極的なICT活用を通して、協働的な学びと個別最適な学びを支援するとともに、習熟度別集団や少人数集団を設置することで、きめ細やかな学習指導を行う。
- (2) 2年次、3年次に共通選択科目を開設し、科を横断した授業を選択できるようにする。
- (3) 「総合的な探究の時間」やインターンシップ等を通して、進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。
- (4) 生徒が主体となったホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を実施する。
- (5) 社会人講師による授業や実習をとおして、実践的・体験的活動の機会を設ける。

【創造工学科】

- (1) 1年生で工業に関する基礎知識を幅広く学び、2年生からコース(機械・電気)を選択する。

- (2) 各種検定資格の取得、技能講習の受講、競技会への積極的な参加を奨励する。
- (3) 工場見学など地域との連携による職場体験学習を通じて、実践的職業能力の向上を目指す。

【創造ビジネス科】

- (1) 1年生で商業に関する基礎知識を幅広く学び、2年生からコース(マネジメント会計・メディア観光)を選択する。
- (2) 各種検定資格の取得、地域イベントの企画・運営、外部コンテストへの参加等を奨励する。
- (3) 地域(御殿場市など)や企業などと積極的に連携し、現実的な課題解決に取り組むことで、より実践的・体験的な活動を行う。

【生活創造デザイン科】

- (1) 3年間をとおして、食物、保育、被服に関する専門的な知識技術を学ぶ。
- (2) 各種検定資格の取得や外部のコンテスト等への積極的な参加を奨励する。
- (3) 学びを活かし、地域に貢献する実践的・体験的な活動を行う。

アドミッション・ポリシー

- (1) 基本的な学習習慣や生活習慣が身に付いている生徒
- (2) 専門分野を学ぶことに強い興味・関心があり、資格取得の意欲がある生徒
- (3) 学校生活に積極的に取り組み、新しいことに挑戦しようとする生徒
- (4) 思いやりの心を持ち、仲間と協働して粘り強く目標達成のために努力しようとする生徒
- (5) 地域や社会に関心を持ち、その発展に貢献したいという意欲のある生徒

(3) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア ICTを効果的に活用することにより、生徒自らの学ぶ意欲と創造性を育成する。
- イ 自ら考え、主体的に行動する有徳の人を育成する。
- ウ きめ細やかな指導を行うことにより健全でたくましい心身を育成する。
- エ 地域連携とキャリア教育を充実することにより、正しい職業観や政治的教養を醸成する。
- オ 生徒が安心して学習できる教育環境を整備する。
- カ 教職員の働き方について適正化を図ると共に、教職員間の同僚性を構築する。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題 **(重点目標はゴシック体で記載)**

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	創造性を高めるとともに、深い学びにつながる授業の工夫とICTの活用を進める。	<p>校内授業公開の実施 (各自2回)</p> <p>(基礎力診断テストにおけるGTZゾーンについて) 入学時の学年平均数値よりも卒業時の平均が上昇している状況を目指とする。</p> <p>保護者の学習指導満足度(75%)</p>	<p>・校内授業公開週間を2回(6月と11月)実施した。</p> <p>・1年:基礎力診断テストに向け、対策用課題に取り組むとともに、各自で目標を立て実践するなど、基礎学力の定着を図った。</p> <p>・2年:基礎力診断テストに向け対策用課題を配布し、各自で目標を立て計画的に学習を進めるよう促すことで、基礎学力の定着を図った。</p> <p>・3年:基礎力診断テスト対策用に課題を配布し、各自に動機付けを促し、基礎学力の定着を図った。</p> <p>・学習指導に満足していると答える保護者は80.7%であった。</p>	B	<p>・校内授業公開週間では多くの教員が他教科の授業を参観し、お互いアドバイスし合うなど、自らの授業を振り返る良い機会となった。</p> <p>・1年:4月の平均GTZはC3-であった。(昨年C3-)またD3の生徒が16名いた。(昨年11名)学習の基礎・基本を定着し、毎回の授業を大切にしながら、前向きな学習習慣を高めていきたい。</p> <p>・2年:1年次4月の平均GTZはC3-、2年時4月はD1-と低下した。下位層のD3も1年次4月が11人から、2年次4月は23人と増加した。進路に対する高い意識を持ち日々の授業に取り組むよう、学習環境を整備していきたい。</p> <p>・3年:1年次4月の平均GTZはC3+、2年次4月はD1+と低下した。3年次4月はD1+であった。下位層のD3の人数は、1年次9人、2年次10人、3年次11人と横ばいであった。一生懸命取り組んでいた。</p> <p>・授業参観や学校ホームページ、SNS等で授業の様子を保護者に伝えていきたい。</p>

		<p>授業がわかると答える生徒 (85%以上) 班やグループで活動するのは楽しいと答える生徒 (85%以上) 全職員が生徒1人1台パソコンを活用した授業を行う。 授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒 (85%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかると答える生徒は 83.3%であった。(82.7%) ・班やグループで活動するのは楽しいと答える生徒は 77.1%であった。(80.8%) ・ほとんどの職員が1人1台パソコンを授業で活用している。 ・授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒は 90.2%であった。(85.7%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒が 90%を超えていることから、多くの教員が ICT を単に使う段階から、効果的に活用する段階になっていると思われる。 ・グループ活動については、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、問いの工夫や ICT の効果的な活用について実践を積み重ね、授業力向上を図っていく。
		<p>資格取得・各種コンクールへの挑戦(年2回以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・E科(創造工学科)：全国工業校長協会検定試験(計算技術検定、情報技術検定、基礎製図検定)第二種電気工事士、品質管理検定やフォークリフト、溶接、高所作業車等の技能講習において、計画通りに実施できた。 ・B科(創造ビジネス科)：各種全商検定試験(ビジネス計算、簿記、ビジネス文書、情報処理の各2回、商業経済の1回)の検定や日商簿記検定の3回等の検定において、計画通りに実施できた。また、複数のビジネスプランコンテスト等に参加することができた。 ・D科(生活創造デザ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・E科：来年度も引き続き、各種検定試験技能講習を継続して実施する。 ・B科：来年度も引き続き、各種検定試験を継続して実施したい。また、各種コンクール等にも積極的に参加したいと考えている。 ・D科：コンクールは、授業内容を深められるものをさらに厳選していきたい。

			イン科) : 家庭科技術検定、サービス接遇検定、給食コンクール、ふじのくに未来デザイン、高校生デザイングランプリに挑戦することができた。		
イ	体験しながら主体的に物事を考える機会を通して、豊かな心や感性を高める。	人権、情報モラル、交通ルール・マナー、芸術鑑賞教室、各学科の専門等に関する講演をそれぞれ1回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象の人権講話(思春期講座)を実施した。(11月) ・情報モラルに関する講演を、1年生対象に御殿場警察署から講師を招き実施した。(4月) ・交通安全講話を全校生徒対象に実施した。(4月) ・自転車安全指導カードの発行状況は97人(11月末)で前年同時期より減少した(-26件)。また、並進、通行区分違反も減少した。 ・交通事故件数は昨年より1件減少して7件であった。(12月末) ・芸術鑑賞教室を11月に御殿場南高校と合同で実施した。アンケートではほぼ全員の生徒が、満足したと回答した。 ・E科:3年生の課題研究において地域の木材加工業者を招き、指導・助言を受けた。(計3日、9時間) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き実施したい。状況に応じて、オンラインでの実施も考慮したい。 ・交通講話や登校指導、何よりも日頃の交通ルール・マナーの遵守の指導により、昨年より減少した。今後も継続的に指導していくとともに、自転車ヘルメット着用率が上がるように呼び掛けていきたい。 ・次年度は小山高校と合同で開催予定である。行事成功のために、担当者同士の連携を密に行っていききたい。 ・E科:制作した作品を御殿場市立御殿場東小学校へ寄贈した。生徒は使う人の利便性や安全性を考慮した

		<ul style="list-style-type: none"> ・B科：観光コースの授業において、御殿場みくりや倶楽部の代表の方等に年間10回程度の講演を実施した。また会計コース、選択授業においても外部講師を招き講演を実施した。 ・D科：保育分野（リトミック、劇創作）や革細工の講習を行うことができた。 		<p>作品の制作を体験し、喜んでもらったことでものづくりの楽しさを体験することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B科：教育的効果も高いため、来年度も引き続き、どのコースの授業においても講演（授業）を検討したい。 ・D科：生徒に効果的な講演講習会が今年度以上にできるよう予算の検討をお願いしたい。
	読書に積極的に取り組んでいると答える生徒（80%以上）。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書に積極的に取り組んでいる」と答える生徒は67.0%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の実施、図書館の分館を本館内に設置、図書委員会の活動を通じた啓蒙活動等の手だてを行っているが、なかなか成果に結びつかない。
	継続活動している生徒（99%以上） 充実した部活動ができてきているという生徒（80%以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・継続活動していると答える生徒は86.6%であった。 ・充実した部活動ができてきていると答える生徒は82.0%であり、昨年度より増加した。（67.5%） ・消極的な転部は7名。運動部への転部が4名であった。女子生徒の運動部離れが顕著である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問の先生方の指導により、部活動の取り組み状況は概ね良好と言える。しかし生徒減や教員減に伴い、部活動規模は縮小している。女子の運動部離れは喫緊の課題である。生徒のニーズに応えながら成長を促す活動となるように努めていきたい。
	施設等との交流の継続 交流報告会等の実施（年1回以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・E科：御殿場特別支援学校との交流事業において、受動歩行ロボットの製作体験を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・E科：生徒はどのように説明したら安全に作業することができ、ロボットを歩行させることができるか考えながら準備し、当日も丁寧な対応ができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・B科：御殿場特別支援学校との交流事業において、クリスマスカードの製作体験を実施した。 ・D科：御殿場特別支援学校との交流授業を行うことができた。デザイン科では、3年生が担当し、絞り染め、クリスマスツリー製作を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・B科：生徒は、パソコンのワープロ機能について、実演を交えてわかりやすく説明すると同時に、特別支援の生徒と積極的にコミュニケーションを行い丁寧な対応ができた。 ・D科：今後も継続したい。
	主体的に御高祭に参加できたと答える生徒（90%以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に御高祭に参加できたと答える生徒は93.0%であった。 ・御高祭の生徒満足度は99.7%、教員から見た生徒の取り組みも100%肯定しており、良い結果となった。展示ブースをコンパクトにするなど工夫がなされた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・展示方法や発表に工夫がなされ、大成功であった。日頃の成果発表と情報発信ができるように、さらに内容を検討していきたい。
	充実した修学旅行であったと答える生徒（90%以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「修学旅行全体の満足度」への回答は「非常に良かった」「良かった」の合計99.1%。 ・平和学習に比べ、班別研修（長崎市内、ハステンボス、大阪市内、USJ）に対する充実度が特に高かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR等で事前学習の時間を多く確保し、平和学習や長崎市内研修をさらに充実させるべきと考える。 ・生徒は集合時間をきちんと守り、体調不良や事故、トラブル等もなく、良い修学旅行となった。

ウ	身体能力の向上と教育相談の充実を図る。	<p>クロスカントリー完走者(全員) 新体力テスト(優良校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロスカントリー大会では、毎授業において練習カードを用いて計画的に取り組むことで体力、記録の向上が図れ、大会での棄権者も少なかった。 ・新体力テストにおいても記録カードを活用した効果的な指導により、男女とも優良校を達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を含めた規律正しい指導と練習カードにより、計画的で前向きな取り組みが実践できた。今後も毎時間のトレーニングを徹底することで、さらに体力の向上を図っていきたい
		<p>自分の体調(不調や課題)を把握し、Cラーニングに入力することができる。 健康診断の結果を健康維持や改善に役立てることができる。 (要受診者の受診率50%以上) 年間欠席日数3日以内の生徒80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が毎日入力することができた。 ・要受診者の受診率は、昨年より6%増加の21.6%であった。(15.6%) ・出停は除く年間欠席日数3日以内(不登校、長期病欠、転学者は除く)の生徒は60.6%(197名)であった。(78%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・C-learnigの入力はほとんどの生徒が入力できていた。来年度へ向け、本校はメンタル不調を訴える生徒が多いためC-learnigの設問にメンタルの状態を問う設問を追加し、不調の早期発見に繋がる設問に変更していきたい。 ・健診の要受診者の受診率は昨年度より上昇している。引き続き呼びかけを行っていきたい。 ・年間欠席日数が3日以内の生徒については昨年度より低下している。不登校生徒の増加が原因として考えられる。今後も教職員で情報共有を密にし、生徒の困り感を軽減できるようにしていきたい。
		<p>不登校生徒に対する相談体制の充実 必要に応じて外部機関との連携を図る。 特別支援教育に関する教職員研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、学校や家庭生活への不安など生徒の状況に応じて教員間で連携を取り、対応ができた。 ・必要に応じて管理職 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なケースを抱える生徒が増えている中で、教職員で連携を取って対応することができた。今後も生徒の実態に応じて、スピード感を持って対応していきたい

		(1回以上) 個別の指導計画に基づく情報共有の推進 道徳教育の推進	が外部機関に連絡をし、対応ができた。 ・特別支援教育に関する教職員研修を年度当初に開催することができた。		い。 ・スクールカウンセラーの助言が大いに役立った。
エ	地域連携とキャリア教育を通して、生徒一人ひとりの特性を生かした進路指導の実現及び政治的教養への意識の向上を図る。	進路指導に満足していると答える生徒 (95%以上) 進路先に満足していると答える生徒 (95%以上) 支援を要する生徒の進路指導に関する保健課との連携の推進	・3年生進路アンケートによると「学校の進路指導に満足している」と答える生徒は98.8% (95.2%)、「進路先に満足している」と答える生徒は98.8% (98.6%)であった。概ね目標を達成することができた。	A	・引き続き、進路満足度の向上を図りたい。進学指導の見直しはもちろんのこと、支援を必要とする生徒への指導についても他部署と連携し進めたい。 ・進路行事(インターンシップ・企業見学等)を積極的に進めたい。
		チケット発行枚数 (前年比5%減)	・チケット発行枚数は45枚(12月末)であった。昨年度は12月末で90枚であったので約半減したと言える。 ・冬になり、今後増加することが予想されるが未然防止に努めたい。	B	・教員、生徒が共通理解を図り、公平な指導により正しい着こなしに結び付いたと言える。初期指導や服育講話も効果的であった。 ・不注意による違反をなくすることが今後の課題である。女子の化粧や冬服違反が増加した。
		出前講座・公民館講座等の実施及び地域行事への参加 (各科5回以上)	・E科:ごてんば産業フェアにおいて、主に地域に小学生を対象とした受動歩行ロボット製作体験を実施、コミセンでの木工体験講座への運営補助等を実施した。 ・B科:ごてんばの日、ごてんば産業祭、御リンピック、ごてんばつ木、駅まえ〜る、農協祭、足柄 SA パンマル	A	・E科:生徒は自分が指導する立場になったとき、どのような点に注意すればよいのか、相手にもものづくりの楽しさを実感してもらうためにはどうしたらよいのか考え、実行することができた。 ・B科:生徒は観光コースに限らず、他学年の行事にも積極的に参加し、自分たちのできることを創造しチャレンジする力を育成でき

		<p>シェなど多数の地域行事に参加し、物販や木育、イベント企画などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D科：公民館での出前講座、地域行事として御殿場市の産業フェアに参加した。 		<p>た。次年度についても、複数回の実施に向け内容を精査しながら継続したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D科：今年度は出前講座の依頼が少なかったが、参加した生徒は意欲的に取り組んでいた。
	<p>地域の企業等と連携した教育活動の推進 (連携団体2か所以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・E科：シモンズ富士小山工場を訪問し、ベッド等の製造工程を見学し、担当者から企業理念・製品を製造する上で重要なことについて説明を受けた。 ・B科：観光・商品開発の授業において、御殿場市役所や御殿場総合サービス、御殿場市観光協会、大田屋等との連携を図ることができた。また、アイザワ証券、プロスペラ学院ビジネス専門学校との連携を図ることもできた。 ・D科：1，2年生希望者に市役所、虎ノ門グループとの共同企画SDGs保育体験を実施できた。3年生では保育部分案実習のために市内保育園幼稚園3ヶ所で実習を行った。軍手人形の披露、手袋シアター、自作劇の披露と保育園の劇衣装のリメイクもできた。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・E科：次年度も継続して、地域・企業との連携を図りたい。 ・B科：次年度も継続して、地域・企業との連携を図りたい。 ・D科：引き続き、地域連携を深めたい。

		<p>地域防災訓練参加率 (70%以上) ふじのくにジュニア 防災士 100 取得</p>	<p>・インフルエンザの流行や人数制限がされた地域もあり、地域防災訓練参加率は 54.7% (57.3%)、ふじのくにジュニア防災士取得率は 98.2% であった。</p>	B	<p>・次年度も地域と連携を図りながら訓練参加を進めていきたい。</p>
		<p>創造探究(総合的な探究の時間)をとおして自らの生き方や地域の課題について考えることができた と答える生徒(80%以上)</p>	<p>・「創造探究(総合的な探究の時間)をとおして自らの生き方や地域の課題について考えることができた」と答えた生徒 78.3% であった。</p>	A	<p>・目標の 80%にはわずかに届かなかったが、ほぼ達成できた。一方で、担任や副担任の負担感もあり、内容については修正を加えていきたい。</p>
オ	<p>教職員、生徒、保護者及び地域の視点から、信頼され、安心できる教育環境づくりを進める。</p>	<p>体罰・不祥事などの 服務事故発生(0件)</p>	<p>・不祥事根絶研修を毎月実施し、コンプライアンスや交通安全意識の維持・向上に努めた。</p>	A	<p>・引き続き、県教委からの通知(コンプライアンス通信)等を活用した校内研修を継続・充実させ、体罰や不祥事、交通安全等に対する高い意識を維持するよう努めていく。</p>
		<p>交通安全ゼロメーターの設置など教職員の安全意識を高め、交通事故0件とする。</p>	<p>・体罰・不祥事などの服務事故0件、交通事故0件であった。</p>	A	
		<p>監査・検査時の指示・指摘 (0件) 学校経営予算の執行残(0.5%)</p>	<p>・チェック・確認体制が機能し、1年間通して監査・検査時の指示・指摘が0件であった。 ・学校経営予算は適切な時期での執行を進め、計画どおりに執行できる見込みである。</p>	A	<p>・引き続き適正な会計処理に努めるとともに効果的な予算執行を進める。</p>

		<p>校内施設の危険箇所や防火等に関する安全点検を月1回以上 備品現有確認(1学期中) 文書整理・不要品処分(年3回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設点検を月1回以上行い、更に業者の点検時に同行するなどして保全に努めた。 ・備品の現有確認を計画どおり行い、更新等整理計画を検討した。 ・文書整理や不用品処分は計画実施とともに随時に行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員相互での情報共有し、設備等の保全に努める。 ・保有設備や備品の有効活用を目指す。
		<p>学校HP・SNS更新(週3回以上) 中学校との連携回数を増やす。 保護者の広報・連絡等満足度(70%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活(行事や部活動など)のSNS投稿は活発に行われた。 ・御高を知る会や御高PR大使(生徒)等により、中学校との連携を積極的に行った。 ・広報・連絡等に満足していると答える保護者は82.8%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、多くの職員が学校HPやSNS等を活用し、学校生活の様子を保護者や中学校へ伝え、本校の魅力をアピールして行きたい。 ・県教委により、学校HPのシステムが1月に切り替わったため、新たにHPの簡易マニュアルを作成している。
		<p>信頼できる教員がいると答える生徒(80%以上) 校内でいじめや嫌がらせを受けたことがあると答える生徒(0人) 入学させて良かった保護者満足度(85%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる教員がいると答える生徒は74.7%であった。 ・11月末に実施した安心安全アンケートで「校内でいじめや嫌がらせを受けたことがある」と答えた生徒は15名であった。(1年3名、2年7名、3年5名) ・入学させて良かったと答える保護者は81.7%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が多様化する中、個に応じた指導を心掛け、相談体制を充実させることで、安心安全な学校づくりを目指して行く。 ・15名中「既に解決している」と答えた生徒は7名。残り8名は各HR担任が聞き取り、対応した。今後も教職員で連携し、生徒が安心して生活できる環境づくりを進めていく。

		学校運営協議会を活用し今後の学校経営に生かす。	・学校運営協議会において、学校経営計画や現在の学校における課題等について、様々な立場から多くの御意見を聞くことができた。	A	・学校運営協議会で出された貴重な御意見を今後の学校経営等に生かし、さらに魅力ある御殿場高校を目指して教育活動を行っていく。
カ	教職員の働き方の適正化と同僚性を構築する。	勤務時間管理システムを効果的に活用する。 カリキュラム・マネジメントの観点による行事の精選 週1回定時退庁日の設定 会議・研修の持ち方を検討する。	・毎月、勤務時間管理システムへの入力呼びかけ、時間外勤務時間の多い職員については、産業医へ報告し指導助言を受けている。 ・定期テスト期間や面接週間を短縮し、保護者地区会を廃止した。 ・毎週水曜日を定時退庁日とし、呼びかけている。 ・放課後に行われる会議や研修については、勤務時間内に終わるよう内容を精選して行った。	B	・自身の働き方や昨年との比較をするために、勤務時間管理システムはとても有効であるため、今後も正しい入力呼びかけていく。 ・生徒数減少に伴い教員数も毎年減っているため、安全面等も考えながら学校行事について検討が必要である。 ・定時退庁日を意識することで、業務を計画的に進めるよう呼びかけていく。 ・会議や研修におけるICTの効果的な活用について検討する。

(2) 令和7年度取組目標・達成方法・成果目標（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	創造性を高めるとともに、深い学びにつながる授業の工夫とICTの活用を進める。	校内外での授業研究会等を通して授業力の向上を図る。 年2回(3年は1回)実施される学びの基礎診断(基礎力診断テスト)を効果的に活用して、生徒の学力向上を図る。	校内授業公開の実施(各自2回) 入学時の学年平均数値よりも卒業時の平均が上昇している状況を目指す。 保護者の学習指導満足度(80%)	全教員
		主体的・対話的で深い学びを実現するために日々の授業にグループ活動を取り入れたり、プロジェクタ、タブレット、パソコン等のICT機器を効果的に活用したりする。	授業がわかると答える生徒(85%以上) 班やグループで活動するのは楽しいと答える生徒(80%以上) 全職員が生徒1人1台パソコンを活用した授業を行う。	全教員

			授業で効果的にICT機器が使われていると答える生徒(90%以上)	
		専門学科に関する資格検定試験、各種コンクール、競技会等への積極的な参加をする。	資格取得、各種コンクールへの挑戦(年2回以上)	3学科
イ	体験しながら主体的に物事を考える機会を通して、豊かな心や感性を高める。	外部講師等による講演等を実施する。	人権、情報モラル、交通ルール・マナー、芸術鑑賞教室、各学科の専門等に関する講演をそれぞれ1回以上実施	生徒課・教務課・情報研修課・3学科
		図書館の活用及び習慣的な読書によって、読解力・思考力・表現力を高める。	読書に積極的に取り組んでいると答える生徒(80%以上)	教務課
		部活動で週1回以上の継続的な活動をする。	継続活動している生徒(90%以上) 充実した部活動ができているという生徒(80%以上)	生徒課
		社会福祉施設等との交流体験で人権意識の高揚を図る。	施設等との交流の継続 交流報告会等の実施(年1回以上)	3学科
		生徒が自ら企画・運営する御高祭を実施する。	主体的に御高祭に参加できたと答える生徒(90%以上)	生徒課
		修学旅行の実施をとおして、見聞を広め、豊かな感性を養う。	充実した修学旅行であったと答える生徒(95%以上)	2年部
ウ	身体能力の向上と教育相談の充実を図る。	体育的行事を通して、体力の向上を図る。	クロスカントリー完走者(全員) 新体力テスト(優良校)	体育科
		生徒がヘルスリテラシーを身につけるために、保健管理や保健指導、組織活動を通じて健康管理・生活習慣・健康情報リテラシーの向上を図る。	自分の体調(不調や課題)を把握し、Cラーニングに入力することができる。 健康診断の結果を健康維持や改善に役立てることができる。 (要受診者の受診率30%以上) 年間欠席日数10日以内の生徒70%以上	保健課
		教育相談体制の充実を図る。 特別支援に関する教員の共通理解を深める。	問題を抱える生徒に対する相談体制の充実 必要に応じて外部機関との連携を図る。 特別支援教育に関する教職員研修を年度始めに実施 個別の指導計画に基づく情報共有の推進 道徳教育の推進	保健課
エ	地域連携とキャリア教育を通して、生徒一人ひとりの特性と専門性を伸ばす。	入学時からの計画的で継続的な指導で生徒の適性を把握する。	進路指導に満足していると答える生徒(95%以上) 進路先に満足していると答える生徒(95%以上) 支援を要する生徒の進路指導に関する保	進路課

	門性を生かした 進路指導の実 現及び政治的 教養への意識 の向上を図る。		健課との連携の推進	
		「服育」を基盤とする身だしなみ指導を徹底する。	チケット発行枚数(前年比5%減)	生徒課
		各科による社会人講座等の実施や地域連携活動を進め、地域貢献の意識を高め、よりよい社会づくりに参画する。	出前講座、公民館講座等の実施及び地域行事への参加(各科5回以上)	3学科
			地域の企業等と連携した教育活動の推進(連携団体2か所以上)	
創造探究(総合的な探究の時間)の積極的な活用をすることにより、自らの人生をより良いものにしようとする意識を高める。	地域防災訓練参加率(70%以上) ふじのくにジュニア防災士100%取得	総務課		
		創造探究(総合的な探究の時間)をとおして自らの生き方や地域の課題について考えることができたと答える生徒(80%以上)	教務課	
オ	教職員、生徒、保護者及び地域の視点から、信頼され、安心できる教育環境づくりを進める。	不祥事根絶を目的とした教職員一人ひとりの心に刻み込まれる校内研修等を実施する。	体罰・不祥事などの服務事故発生(0件) 交通安全ゼロメーターの設置など教職員の安全意識を高め、交通事故0件とする。	全職員
		不適正経理根絶のための事務部チェック・確認体制の確立及び学校経営予算の効果的な予算執行をする。	監査・検査時の指示・指摘(0件) 学校経営予算の執行残(0.5%)	事務部
	既存施設設備の保全と学校全体の有効活用を推進する。	校内施設の危険箇所や防火等に関する安全点検を月1回以上 備品現有確認(1学期中) 文書整理・不用品処分(年3回)	事務部	
	学校広報活動に積極的に取り組む。	学校HP・SNS更新(週3回以上) 中学校との連携回数を増やす。 保護者の広報・連絡等満足度(80%)	情報研修課 全職員	
	生徒、保護者及び地域に安心感を与える学校づくりを進める。	信頼できる教員がいると答える生徒(80%以上) 校内でいじめや嫌がらせを受けたことがあると答える生徒(0人) 入学させて良かった保護者満足度(85%)	全教員	
	社会に開かれた教育課程の研究に取り組む。	学校運営協議会を活用し今後の学校経営に生かす。	全職員	
カ	教職員の働き方の適正化と同僚性を構築する。	働き方改革を進め、適正なワークライフバランスを実現するとともに教職員が生徒に向き合う時間を増加させる。	勤務時間管理システムを効果的に活用する。 カリキュラム・マネジメントの観点による行事の精選	全職員

			週 1 回定時退庁日の設定 会議・研修の持ち方を検討する。	
--	--	--	----------------------------------	--

4 監査対象期間における特色ある取組

令和6年度

取組概要	成果及び課題
スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動を推進し、専門学科としての魅力を増進させる。	各学科の特性を活かした地域連携の充実 国立中央青少年交流の家との相互連携協定締結による、課題研究の充実
社会へ開かれた教育活動の一環として、広報委員会を設置し、出前授業、ホームページ等により広報活動を充実させる。	出前授業の内容とホームページの充実 運営委員による中学校訪問、御高を知る会、御高PR大使の実施 SNSの発信強化
新学習指導要領や高大接続改革を見据え、カリキュラム・マネジメントを推進しながら、観点別評価の研究を進める。	観点別評価の実践、課題発見、改善 教科横断型の視点の導入 業務改善の推進
キャリア教育や道徳教育を推進することで、生徒の生きる力育成へ向けた土台を構築する。	創造探究（総合的な探究の時間）の充実 トークフォークダンスの実施 生徒の内面に問いかける服育指導の推進
生徒の健康管理の充実及び身体能力の向上と、特別支援教育体制の再構築を推進する。	クロスカントリー大会や新体力テスト等の体育的行事を通しての体力の向上 体育的行事における安全管理体制の充実 個別の指導計画を策定し個に応じた指導体制の整備

令和7年度

取組概要	成果及び課題
スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づく教育活動を推進し、専門学科としての魅力を増進させる。	各学科の特性を活かした地域連携の充実 社会人講師による実践的・体験的活動の充実 各種検定資格の取得、科を横断した授業選択
社会へ開かれた教育活動の一環として、学びを活かした地域貢献に取り組み、ホームページ等により広報活動を充実させる。	地域イベントへの積極的な参加 運営委員による中学校訪問、御高を知る会、御高PR大使の実施 ホームページの充実、SNSの発信強化
新学習指導要領や高大接続改革を見据え、カリキュラム・マネジメントを推進しながら、観点別評価の研究を進める。	生徒1人1台PCの効果的活用と授業改善の推進 観点別評価の実践、課題発見、改善 教科横断型の視点の導入
キャリア教育や道徳教育を推進することで、生徒の生きる力育成へ向けた土台を構築する。	創造探究（総合的な探究の時間）の充実（アントレプレナーシップ教育、トークフォークダンスの実施） 生徒の内面に問いかける服育指導の推進
生徒の健康管理の充実及び身体能力の向上と、特別支援教育体制の再構築を推進する。	クロスカントリー大会や新体力テスト等の体育的行事を通しての体力の向上、安全管理体制の充実 個別の指導計画を策定し個に応じた指導体制の整備

5 教職員について

(1) 令和6年度末異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員												会計年度任用職員等						合計	
	教育職員						行政職員													
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	小計	事務長	主査	主任	主事	小計	教諭	主事	外国語指導講師	非常勤講師	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		小計
転出			1	4			5				1	1	1						1	7
退職				1			1						1			4			5	6
転入			1	4	1		6						2	1					3	9
新任				1			1									2			2	3
役職 定年																				0
差引 増減	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	△1	△1	0	1	0	△2	0	0	△1	△1

(2) 現員数

(令和7年度5月31日現在) (単位：人)

職名 区分	本務職員												会計年度任用職員等						合計	
	教育職員						行政職員													
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	小計	事務長	主査	主任	主事	小計	教諭	主事	外国語指導講師	非常勤講師	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		小計
現員	1	1	1	31	2	1	37	1	1	1	1	4	2	1	1	6	1	3	14	55

(3) 健康管理について

(令和6年度)

教職員には、ワークライフバランスの実現に向けて、日ごろからの声掛けと毎週水曜日の定時退勤の呼びかけを行い、心身の健康保持に努めた。また、教職員の業務の多忙化や生徒・保護者への対応等によるストレスから、メンタルヘルス不調も懸念されるため、産業医による面接指導の活用を促し、管理職による声掛けを行った。

生活習慣病健診等の受診状況を確認すると共に、要再検査の場合には速やかな受診を促し健康管理の重要性の啓発を行った。

職員安全衛生委員会を毎月開催し、職員室の安全確認や更衣室の片付け等を行い、より良い職場環境を整えることができた。

(令和7年度)

不祥事研修では、グループワークを取り入れることで事例等を自分事として捉え、不祥事根絶に向けた意識向上はもとより、教職員間のコミュニケーション及びチームワークの円滑化を図る。

定期健康診断受診後は、結果に応じた受診や治療を早期に行うよう促す。

長期休業前は休暇や年休の積極的な取得を促し、毎週水曜日の定時退勤日には効率良く業務を進めるよう、朝の打合せで呼び掛ける。また、教職員勤務時間管理システムを効果的に活用することで、時間外勤務時間数を把握し、業務改善に対する意識を高める。

職員安全衛生委員会を毎月開催し、全教職員が毎日気持ち良く業務を行うことができるよう、職場環境の改善を図る。

(4) 教職員の研修について

ア 校内研修

(令和6年度)

授業改善・生徒指導	目的	授業や課外活動における実践報告や各種研修で学んだことを共有する活動を推進することで、職員が一丸となって生徒指導や学習指導の専門性を高める。
	計画	「学び合い高め合う職員集団の形成」を校内研修テーマとして、多くの職員が積極的に研修に参加できる体制を整える。併せて相互授業参観を実施し、授業改善への意欲を高める。
	実績 (成果)	5月、「特別支援教育の視点からの指導と支援」を演題とした校内研修を開催し、「困り感」を持つ生徒の指導等について、共通理解を図ることができた。 公開授業週間を6月と11月に実施し、多くの教員が授業改善に向けた意見交換を行った。
	評価・改善	教科・学年・分掌等の枠を超えて、相互に知識を深めていく研修を行っていきたい。

人権教育	目的	豊かな心と多様な価値観をもつ人材の育成
	計画	教職員は学校生活における生徒の姿を知り、特に問題を抱えている生徒理解を通して生徒同士がお互いに関わり合う指導を積極的に行う。
	実績 (成果)	6月から毎週水曜日と金曜日の昼休みに、校内相談室（本校職員対応）を開設した。 11月、全校生徒を対象に「思春期」をテーマとした、命の大切さや性教育に関する人権講和を開催した。 教職員は生徒を認め、身近な話題で言葉を投げかけながら、学校生活における生徒への適切な支援を行っていく。
	評価・改善	教職員対象の人権に関する研修等を行い、教職員の校内での声掛けやクラスの指導等で個々の生徒への自尊感情を意識した指導を行っていく。
教職員の不祥事根絶（安心できる教育環境づくり）	目的	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができる教育環境の構築と教職員の豊かな人間関係の構築
	計画	従来の不祥事根絶の事例報告だけでなく、事例に基づく原因や改善点について、グループワークを実施して教職員が主体的に考えられる場を設ける。 生徒、保護者及び地域の方から信頼され安心できる教育環境づくりに努める。
	実績 (成果)	不祥事根絶に向けた全職員での研修を実施した。研修ではグループワークを取り入れることで、教職員の人間関係をより深め、互いに声掛けをするなど、注意喚起しやすい職場づくりを推進することができた。
	評価・改善	不祥事の実例について、その原因や改善策について多面的に考え、全教職員が不祥事について正しく理解し、生徒、保護者及び地域の方から信頼される教育環境づくりを目指す。

（令和7年度）

（令和7年6月30日現在）

授業改善・生徒指導・特別支援教育	目的	授業や課外活動における実践報告や各種研修で学んだことを共有する活動を推進することで、職員が一丸となって生徒指導や学習指導の専門性を高める。
	計画	「学び合い高め合う職員集団の形成」を校内研修テーマとして、多くの職員が積極的に研修に参加できる体制を整える。併せて相互授業参観を実施し、授業改善への意欲を高める。
	実績 (成果)	9月、「発達支持的な生徒指導の充実」をテーマとした校内研修を開催予定。 10月、スクールロイヤーによる校内研修を開催予定。 公開授業週間を6月に実施した。11月にも実施予定。
	評価・改善	授業や課外活動における実践報告や各種研修会で学んだことを共有する場を設定し、教員の専門性をさらに高めていきたい。

人権教育	目的	豊かな心と多様な価値観をもつ人材の育成
	計画	教職員は学校生活における生徒の姿を知り、特に問題を抱えている生徒理解を通して生徒同士がお互いに関わり合う指導を積極的に行っていく。
	実績 (成果)	昨年度から、毎週水曜日と金曜日の昼休みに、校内相談室（本校職員対応）を開設している。 6月、静岡県教職員互助組合主催による教育講演会『ゴルゴ松本「命の授業」』を開催した。命の大切さやよりよい人生の考え方などについて、生徒の心に熱く響く内容であった。
	評価・改善	生徒と教職員が、相手の人権意識への視点に立ち、豊かな心と多様な価値観をもつことができる研修等を継続的に行っていく。
教職員の不祥事根絶（安心できる教育環境づくり）	目的	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができる教育環境の構築と教職員の豊かな人間関係の構築
	計画 (成果)	不祥事を未然に防ぐための教職員研修を開催し、不祥事を自分事として考えられるようグループワークを通して、他の教員との情報共有、意見交換を図る。また、継続的な声掛けやアンケート・教職員面談等による聞き取りを実施し、不祥事に対して早期に対応できる体制を整える。
	実績 (成果)	コンプライアンス通信（県教育委員会）を活用した不祥事根絶研修を定期的実施する。 6月までに、生徒指導に係る共通ルールや交通事犯、ハラスメント等に関する研修を4回実施した。
	評価・改善	コンプライアンスに対する意識を常に高く持つために、研修を継続的に実施し、不祥事を自分事として捉え、不祥事が起きない、起こさせない職場環境づくりを目指していく。

イ 校外研修

内容	令和6年度（実績）	令和6年度（予定）
教職初任研修	2人	0人
教職2年研修	1人	2人
教職3年研修	1人	1人
教職6年研修	1人	0人
教職7年研修	1人	1人
教職8年研修	2人	1人
教職中堅研修（Ⅰ）	0人	1人
教職中堅研修（Ⅱ）	1人	0人
新規採用職員研修	0人	0人
4年次職員研修	0人	0人

6 防災対策について

(令和6年度)

目的	南海トラフ巨大地震・大規模災害を想定した避難訓練等とおして、災害時の円滑な対応を身につけ、地域社会の一員として貢献する意識を育む。
計画	防災訓練を年2回実施し（5月、12月）、12月の地域防災訓練への生徒参加率70%、「ふじのくにジュニア防災士」取得率100%以上を目指す。また、資機材の格納場所を確認する。
実績 (成果)	緊急地震速報を使った避難訓練を実施し、地区別集会を実施した。 1年生「創造探究」（総合的な探究の時間）では、防災（地震等）について学習し、「ふじのくにジュニア防災士」の取得率は98.2%であった。 地域防災訓練参加率は、インフルエンザの流行や人数制限がされた地域もあり、54.7%であった。
評価・改善	危機管理マニュアルに「不審者への対応」と「熱中症への対応」を追加した。 引き続き、文部科学省「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」等を参考に、改善していく。 地域防災訓練については、地域との連携を図りながら訓練参加を呼び掛けていく。

(令和7年度)

(令和7年6月30日現在)

目的	南海トラフ巨大地震・大規模災害を想定した避難訓練等とおして、災害時の円滑な対応を身につけ、地域社会の一員として貢献する意識を育む。
計画	防災訓練を年2回実施し（5月、12月）、12月の地域防災訓練では、生徒参加率70%を目指す。また、1年生「創造探究」（総合的な探究の時間）では、防災教育を計画的に実施し、「ふじのくにジュニア防災士」の取得率100%を目指す。 危機管理マニュアルに「アナフィラキシー発症時の対応」や「食物アレルギー」の項目を追加する。
実績 (成果)	5月、緊急地震速報を使った避難訓練を実施し、地区別集会を行った。 5～6月の「創造探究」では、1、2年生を対象とした防災講和（講師：県東部地域局危機管理課）を開催し、1年生にはこの他に防災教育を3回実施し、防災対応の基礎知識等について理解を深めることができた。
評価・改善	危機管理マニュアルについては、健康体育課の現地確認を通して、より実効性のある内容に見直していく。

7 学校開放について

(令和6年度)

施設名	利用種目	開放日数	利用者数(延)	利用者負担金 (電気料)
運動場	硬式野球	10日	310人	0円
	軟式野球	10日	215人	11,749円
	ソフトボール	19日	284人	0円
体育館	バスケットボール	38日	723人	10,844円
	ハンドボール	103日	2,705人	16,344円
	剣道	36日	155人	5,567円
計		216日	4,392人	39,675円

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

施設名	利用種目	開放日数	利用者数(延)	利用者負担金 (電気料)
運動場	硬式野球	0日	0人	0円
	軟式野球	1日	25人	597円
	ソフトボール	6日	87人	5,376円
体育館	バスケットボール	5日	94人	715
	ハンドボール	12日	274人	1,716円
	剣道	3日	15人	429円
計		27日	495人	8,833円

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校管理規則 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） いじめ防止対策推進法（第8条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等修学支援事業費補助金（奨学のための給付金）交付要綱 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び静岡県高等学校等奨学金貸与規則 静岡県補助金等交付規則 県立学校行事キャンセル料支援事業費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条）

学校施設の概要

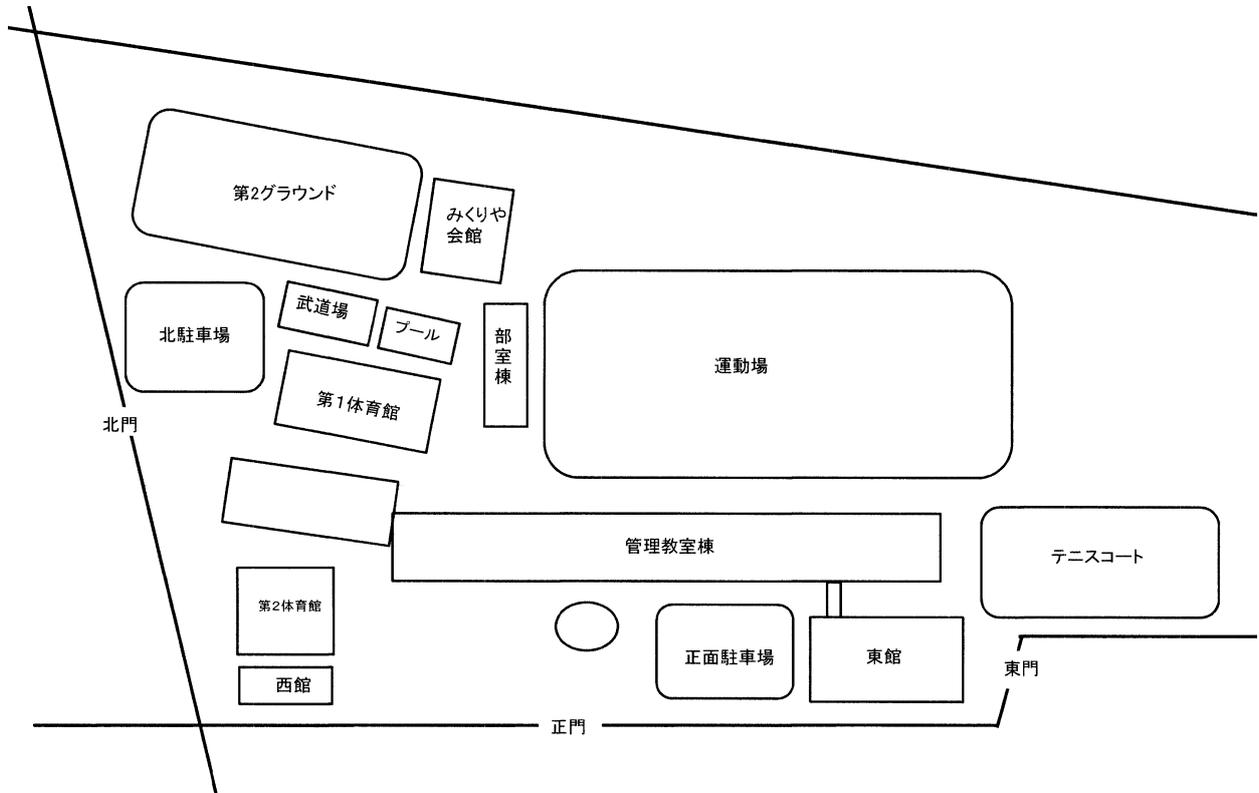
1 面積及び所有区分

(令和7年5月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	47,968.90	45,254.16		220.00	690.00	1,804.74	
内 訳	校舎敷地	20,233.86	19,543.86			690.00	
	運動場敷地	25,496.85	24,443.11		110.00		943.74
	そ の 他 の 敷 地	2,238.19	1,267.19		110.00		861.00
校 舎	建2,873.84	2,873.84					
	延9,014.44	9,014.44					
体 育 館	建2,121.55	2,121.55					
	延2,260.67	2,260.67					
武 道 場	建 617.40	617.40					
	延 567.00	567.00					
その他の建物	建1,077.63	1,077.63					
	延1,069.06	1,069.06					
生 活 館	建 221.94				221.94		
	延 593.20				593.20		
プ ー ル	1 個	1 個					25m 7コース

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	47,968.90㎡	9,014.44㎡	25,496.85㎡
県平均	45,574.48㎡	9,782.41㎡	22,506.84㎡

在 籍 生 徒 調

(令和7年5月31日現在)

学年	学科別		創造工学科				創造ビジネス科				生活創造デザイン科				合 計			
	区 分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者		40	42	0	42	40	19	23	42	40	3	30	33	120	64	53	117
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現 在			42	0	42		19	23	42		3	30	33		64	53	117
2年	入学者		40	41	0	41	40	21	20	41	40	3	28	31	120	65	48	113
		増加		1	0	1		0	0	0		0	0	0		1	0	1
		減少		2	0	2		0	0	0		0	2	2		2	2	4
	2年時当初			40	0	40		21	20	41		3	26	29		64	46	110
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	現 在			40	0	40		21	20	41		3	26	29		64	46	110
3年	入学者		40	40	1	41	40	22	19	41	40	8	32	40	120	70	52	122
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		0	0	0		1	0	1		0	0	0		1	0	1
	2年時当初			40	1	41		21	19	40		8	32	40		69	52	121
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
		減少		3	0	3		2	0	2		0	1	1		5	1	6
	3年時当初			37	1	38		19	19	38		8	31	39		64	51	115
		増加		0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0
減少			0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
現 在			37	1	38		19	19	38		8	31	39		64	51	115	
合計			120	119	1	120	120	59	62	121	120	14	87	101	360	192	150	342

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度			
学 科 別		全 日 制				全 日 制				全 日 制				全 日 制				全 日 制			
		創造 工学	創造 ビジネス	生活創造 デザイン	計																
生徒定員 (A)		80	40	40	160	80	40	40	160	40	40	40	120	40	40	40	120	40	40	40	120
募集者数 (B)		80	40	40	160	80	40	40	160	40	40	40	120	40	40	40	120	40	40	40	120
志願者数	男	78	13	0	91	37	19	0	56	54	30	7	91	42	23	2	67	47	23	2	72
	女	2	28	34	64	1	22	24	47	1	25	32	58	0	20	28	48	0	26	27(1)	53(1)
	計 (C)	80	41	34	155	38	41	24	103	55	55	39	149	42	43	30	115	47	49	29(1)	125(1)
受検者数	男	78	13	0	91	37	19	0	56	53	28	7	88	42	23	2	67	47	22	2	71
	女	2	28	34	64	1	22	24	47	1	26	32	59	0	20	28	48	0	26	27(1)	53(1)
	計 (D)	80	41	34	155	38	41	24	103	54	54	39	147	42	43	30	115	47	48	29(1)	124(1)
合格者数	男	78	13	0	91	37	19	0	56	40	22	8	70	41	21	3	65	42	19	3	64
	女	2	28	34	64	1	22	24	47	1	19	32	52	0	20	28	48	0	23	29(1)	52(1)
	計 (E)	80	41	34	155	38	41	24	103	41	41	40	122	41	41	31	113	42	42	32(1)	116(1)
志願倍率 (C)/(B)		1.00	1.03	0.85	0.97	0.48	1.03	0.60	0.64	1.38	1.38	0.98	1.24	1.05	1.08	0.75	0.96	1.18	1.23	0.73	1.04
受検倍率 (D)/(B)		1.00	1.03	0.85	0.97	0.48	1.03	0.60	0.64	1.35	1.35	0.98	1.23	1.05	1.08	0.75	0.96	1.18	1.20	0.73	1.03
入 学 者 数	男	78	13	0	91	37	19	0	56	40	22	8	70	41	21	3	65	42	19	3	64
	女	2	28	34	64	1	22	24	47	1	19	32	52	0	20	28	48	0	23	29(1)	52(1)
	計 (F)	80	41	34	155	38	41	24	103	41	41	40	122	41	41	31	113	42	42	32(1)	116(1)
充足率 (F)/(A)		1.00	1.03	0.85	0.97	0.48	1.03	0.60	0.64	1.03	1.03	1.00	1.02	1.03	1.03	0.78	0.94	1.05	1.05	0.80	0.97

卒業生の動向調

(高等学校用)

1 進路状況

学 科 別		創 造 工 学 科			創 造 ビ ジ ネ ス 科			生 活 創 造 デ ザ イ ン 科			(計)		
		4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度	4年度	5年度	6年度
卒業生徒数		79	78	38	60	40	40	37	32	22	176	150	100
内	(進学志願者)	(29)	(23)	(6)	(31)	(16)	(21)	(26)	(19)	(15)	(86)	(58)	(42)
	大学・短大	14	12	2	13	11	10	13	4	4	40	27	16
	専修・各種 学校等	15	11	4	18	5	11	13	15	11	46	31	26
	小 計	29	23	6	31	16	21	26	19	15	86	58	42
訳	就 職 者	48	53	31	28	24	18	10	13	5	86	90	54
	自 営 者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	進学準備者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	2	2	1	1	0	1	1	0	2	4	2	4
合 計		79	78	38	60	40	40	37	32	22	176	150	100

2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	4年度	5年度	6年度
就 職 希 望 者 数	86	90	54
求 人 数	211	199	197
求 人 倍 率	2.5	2.2	3.6

3 資格取得状況

*は国家資格

(令和6年度)

学 科 別	創造工学科	創造ビジネス科	生活総合デザイン科	(計)
卒業生徒数	38	40	22	100
基礎製図検定	15			15
計算技術検定 3級 (1年次取得)	35			35
〃 2級	2			2
情報技術検定 3級	32			32
*第2種電気工事士	10			10
*低圧電気取扱業務特別教育	18			18
*ガス溶接技能講習	36			36
*フォークリフト技能講習	34			34
*ボイラー取扱技能講習(小規模ボイラー)	36			36
*アーク溶接特別教育	34			34
*自由研削といし特別教育	34			34
*高所作業車運転特別教育	35			35
全商ビジネス文書実務検 1級		13		13
〃 2級	1	27		28
〃 3級	1	3	10	14
全商簿記検定 1級		3		3
〃 会計		3		3
〃 原価計算		5		5
〃 2級		6		6
〃 3級		33	4	37
全商情報処理検定 1級プログラミング部門		1		1
全商情報処理検定 1級ビジネス情報部門		8		8
〃 2級ビジネス情報部門		32		32
〃 3級	1	38		39
全商商業経済検定 1級		6		6
〃 2級		4		4
〃 3級		34	4	38
全商ビジネス計算検定 1級		14		14
〃 2級		30		30
〃 3級		35	3	38
日商簿記検定 2級				0
日商簿記検定 3級		1		1
被服技術検定 1級(和)				0
〃 2級(洋)			20	20
〃 3級			22	22
食物調理技術検定 1級			18	18
〃 2級			22	22
〃 3級			22	22
保育技術検定 2級				0
保育技術検定 3級			20	20
(公社)色彩検定協会 色彩検定2級			2	2
(公社)色彩検定協会 色彩検定3級			2	2
日本カラーコーディネーター協会ライフカラー検定2級			1	1
日本カラーコーディネーター協会パーソナルカラー検定2級			1	1
サービス接遇実務検定3級				0
合 計	324	296	151	771

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年5月31日現在) (単位：人)

市町名	御殿場市	小山町	裾野市	その他	合計
生徒数	261	47	30	4	342
構成比%	76.3%	13.7%	8.8%	1.2%	100%

(2) 通学方法

(令和7年5月31日現在) (単位：人)

区分	徒歩	自転車	バス	電車	その他	合計
生徒数	70	147	16	67	42	342
構成比%	20.4%	43.0%	4.7%	19.6%	12.3%	100%

2 部（クラブ）の加入状況

(令和7年5月31日現在) (単位：人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部（クラブ）数		8	5	/	13
男子	1年	46	17	1	64
	2年	33	31	0	64
	3年	42	22	0	64
	計（A）	121	70	1	192
	構成比	63.0	36.5	0.5	100
女子	1年	18	35	0	53
	2年	9	37	0	46
	3年	17	34	0	51
	計（B）	44	106	0	150
	構成比	29.3	70.7	0.0	100
合計	（A+B）	165	176	1	342
	構成比	48.2	51.5	0.3	100

授業料収納状況調

(全日制)

(令和6年度)

期別	月別	調定の状況								収納の状況			異動者等の状況		
		1年		2年		3年		計		納期内収納額	納期後	収入			
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額		未済額	
		人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円		
一期	4~6														A. 期首収納権利発生額=1,128,600円 (1年15人×9,900円×3月 2年13人×9,900円×3月 3年10人×9,900円×3月) B. 収納権利増減額=0円 C. 収納必要額A(±)B=1,128,600円
	7	15	445,500	13	386,100	10	297,000	38	1,128,600	1,128,600	100.0	0	0		
	8														
	計	15	445,500	13	386,100	10	297,000	38	1,128,600	1,128,600	100.0	0	0		
二期	7~9														A. 期首収納権利発生額=2,227,500円 (1年20人×9,900円×5月 2年13人×9,900円×5月 3年12人×9,900円×5月) B. 収納権利増減(▲1)額=9,900円 (内訳) 10月31日:2年:転学▲1 C. 収納必要額A(±)B=2,217,600円
	10	20	990,000	13	643,500	12	594,000	45	2,227,500	2,227,500	100.0	0	0		
	11			▲1	▲9,900			▲1	▲9,900	▲9,900					
	計	20	990,000	12	633,600	12	594,000	44	2,217,600	2,217,600	100.0	0	0		
三期	12														A. 期首収納権利発生額=1,742,400円 (1年21人×9,900円×4月 2年11人×9,900円×4月 3年12人×9,900円×4月) B. 収納権利増減(▲1)額=9,900円 (内訳) 2月6日:1年:退学▲1 C. 収納必要額A(±)B=1,732,500円
	1	21	831,600	11	435,600	12	475,200	44	1,742,400	1,663,200	95.5		79,200		
	2	▲1	▲9,900					▲1	▲9,900			69,300	0		
	3														
	計	20	821,700	11	435,600	12	475,200	43	1,732,500	1,663,200	96.0	69,300	0		
合計		55	2,257,200	36	1,455,300	34	1,366,200	125	5,078,700	5,009,400	98.6	69,300	0	D. 収納必要額=5,078,700円	

令和7年度 令和7年5月31日現在 該当なし

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度 (令和 7 年 5 月 31 日 現在)
	件 数	件 数
入学検定料	128件	0件

預 金 調

(令和7年5月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
スルガ銀行御殿場駅支店	無利息型 普通預金	□□□□	御殿場高等学校 資金前渡者 西川 勝啓	0	給与法定外控除等
スルガ銀行御殿場駅支店	無利息型 普通預金	□□□□	自振口. 御殿場高等学校 資金前渡者 御殿場高等学校 西川 勝啓	0	公共料金・社会保 険料支払等
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年5月31日現在)

(単位:枚、円)

区 分	種 類	令 和 6 年 度						令 和 7 年 度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額		枚数	金 額
郵 券	20 円券	0	0	1	20	0	0	1	20	0	0	1	20	0	0	文書発送
	22 円券	0	0	1	22	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	
	26 円券	0	0	5	130	3	78	2	52	0	0	0	0	2	52	
	63 円券	1	63	0	0	1	63	0	0	0	0	0	0	0	0	
	84 円券	6	504	0	0	4	336	2	168	0	0	0	0	2	168	
	85 円券	0	0	38	3,230	38	3,230	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110 円券	0	0	1	110	1	110	0	0	0	0	0	0	0	0	
	120 円券	4	480	0	0	3	360	1	120	0	0	1	120	0	0	
180 円券	0	0	1	180	0	0	1	180	0	0	0	0	1	180		
計			1,047		3,692		4,199		540		0		140		400	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	3,501,303	/
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		3,418,718	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		702,372	
計					5,607,855	7,622,393	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	6,906,900	/
計					847,000	6,906,900	0
(16) 公有財産 購入費					/		/
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	/	280,500	/
計					477,400	280,500	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	/	34,325,000	/
計					39,522,800	34,325,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償金					/		/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年5月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、令和6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	165,000	0
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	76,560	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	0
計					241,560	0
(14) 工事請負費						
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	0	
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費	0	
計					0	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	4,000	0
計					4,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	警備業務	セコム (株)	6,746,982	4,719,000	155,763	4,874,763	一般	自R1.10.1 至R6.9.30	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 (小計)	(4,247,100) 104,610 104,610 104,610 104,610 104,610 104,613 627,663	警報器機等による建物の常時監視及び出動	R1長期 御殿場南 小山 裾野 御殿場特別支援 御殿場特別支援 小山分校
2	警備業務	セコム (株)	18,334,800	9,900,000	0	9,900,000	一般	自R6.10.1 至R11.9.30	R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 (小計)	165,000 165,000 165,000 165,000 165,000 165,000 990,000	警報器機等による建物の常時監視及び出動	R6長期 御殿場南 小山 裾野 御殿場特別支援 御殿場特別支援 小山分校
3	消防用設備等保守点検業務	伊豆防災機器 (株)	4,493,852	4,493,852	0	4,493,852	一般	自R6.4.1 至R7.3.31	R6.11.29 R7.3.31 (小計)	2,696,001 1,797,851 4,493,852	消防用設備及び防火設備の保守点検	御殿場南 小山 裾野 御殿場特別支援
4	自家用電気工作物保安管理業務	杉山電気管理事務所	834,900	834,900	0	834,900	随契	自R6.4.1 至R7.3.31	R6.6.28 R6.9.25 R6.11.29 R6.12.26 R7.2.28 R7.4.30 (小計)	125,400 125,400 207,900 125,400 125,400 125,400 834,900	電気工作物の点検及び工事、維持に係る測定、試験、指示、助言	随契1号 (少額) 小山
5	水質検査業務	芝浦セムテック (株)	238,700	211,970	0	211,970	随契	自R6.4.10 至R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 (小計)	52,360 4,840 37,620 29,370 4,840 4,840 29,370 4,840 4,840 29,370 4,840 4,840 211,970	飲料水の水質検査	随契1号 (少額)
6	水道施設維持管理業務	(株) カンザイ	253,000	242,000	52,608	294,608	随契	自R6.4.1 至R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 (小計)	9,350 9,350 9,350 9,350 94,050 9,350 9,350 9,350 67,602 22,502 22,502 22,502 294,608	専用水道施設の点検及び清掃	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	富士総業 (株)	84,700	84,700	0	84,700	随契	自R6.4.16 至R7.3.31	R6.11.5 (小計)	84,700 84,700	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契1号 (少額) 単価契約
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分業務	富士総業 (株)	84,700	84,700	0	84,700	随契	自R6.10.16 至R7.3.31	R7.4.8 (小計)	84,700 84,700	産業廃棄物の収集・運搬及び処分	随契1号 (少額) 単価契約
	事務関係計	8件	31,071,634	20,571,122	208,371	20,779,493				7,622,393		
	合計	8件	31,071,634	20,571,122	208,371	20,779,493				7,622,393		
参考1	可燃物収集運搬処分業務	(株) 東海衛生		収集・運搬料 単価 1回 935円 処分手数料 単価 1kg 8円	0	収集・運搬料 単価 1回 935円 処分手数料 単価 1kg 8円		自R6.4.5 至R7.3.31			小山高校外3校の可燃物の収集・運搬及び処分	小山高校
参考2	プール浄化装置設備点検業務	三友水処理 (株)		196,680	0	196,680		自R6.4.11 至R6.11.30			沼津西高校外11校の機器 (動力盤を含む) 並びに配管の点検等	沼津西高校
参考3	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	(有) コーセイ産業		808,500	0	808,500		自R6.8.20 至R6.12.20			御殿場南高校外4校の建築基準法第12条に基づく建物及び建築設備の定期点検	御殿場南高校
	計	3件		1,005,180	0	1,005,180						

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受 託 者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘 要
				当初額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 警備業務	セコム (株)	円 18,334,800	円 9,900,000	円 0	円 9,900,000	一般	自R6.10.1 至R11.9.30	R7. 5.30 (小計)	円 (990,000) 165,000 165,000	警報器機等による 建物の常時監視及 び出動	R6長期 御殿場南 小山 裾野 御殿場特別支援 御殿場特別支援 小山分校
2	消防用設 備等保守 点検業務	伊豆防災機器 (株)	4,579,652	4,579,652	0	4,579,652	一般	自R7.4.1 至R8.3.31	 (小計)	0	消防用設備及び防 火設備の保守点検	御殿場南 小山 裾野 御殿場特別支援
3	自家用電 気工作物 保安管理 業務	杉山電気管理事務所	834,900	834,900	0	834,900	随契	自R7.4.1 至R8.3.31	 (小計)	0	電気工作物の点検 及び工事、維持に 係る測定、試験、 指示、助言	随契1号 (少額) 小山
4	水質検査 業務	芝浦セムテック (株)	243,100	211,970	0	211,970	随契	自R7.4.10 至R8.3.31	R7. 5.30 (小計)	52,360 52,360	飲料水の水質検査	随契1号 (少額)
5	水道施設 維持管理 業務	(株) カンザイ	400,400	385,000	0	385,000	随契	自R7.4.1 至R8.3.31	R7. 5.30 (小計)	24,200 24,200	専用水道施設の点 検及び清掃	随契1号 (少額)
6	産業廃棄 物収集・ 運搬及び 処分業務	富士総業 (株)	86,900	86,900	0	86,900	随契	自R7.4.14 至R8.3.31	 (小計)	0	産業廃棄物の収集 ・運搬及び処分	随契1号 (少額) 単備契約
7	産業廃棄 物収集・ 運搬及び 処分業務	(株) ホクセイ	65,934	65,934	0	65,934	随契	自R7.5.1 至R7.8.31	 (小計)	0	廃蛍光灯・廃乾電 池収集・運搬及び 処分	随契1号 (少額) 単備契約
	事務関係 計	7件	24,545,686	16,064,356	0	16,064,356				241,560		
	合 計	7件	24,545,686	16,064,356	0	16,064,356				241,560		
参考 1	可燃物収 集運搬処 分業務	富士総業 (株)	/	収集・運搬料 単価 1回 1,210円 処分手数料単 価 1kg 8円	/	収集・運搬料 単価 1回 1,210円 処分手数料単 価 1kg 8円	/	自R7.4.4 至R8.3.31	/	/	小山高校外3校の 可燃物の収集・運 搬及び処分	小山高校
参考 2	プール浄 化装置設 備点検業 務	三友水処理 (株)	/	183,700	/	183,700	/	自R7.4.11 至R7.11.28	/	/	沼津西高校外10校 の機器 (動力盤を 含む) 並びに配管 の点検等	沼津西高校
	計	2件	/	183,700	/	183,700						

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	令和6年度全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	令和6年度全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会	円 4,000	R6. 4. 30
2	令和6年度東海地区工業高等学校長教育研究会総会・研究協議会参加費	東海地区工業高等学校長教育研究会	開催要項による	令和6年度東海地区工業高等学校長教育研究会総会・研究協議会	2,000	R6. 6. 28
3	第68回全国高等学校家庭科実践研究会群馬大会参加費	全国高等学校長協会家庭部会	開催要項による	第68回全国高等学校家庭科実践研究会群馬大会	4,000	R6. 6. 28
4	令和6年度東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催要項による	令和6年度東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	2,000	R6. 7. 10
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第1期296名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	8,791,200	R6. 7. 31
6	令和6年度全国工業高等学校長協会第72回研究協議会三重大会参加費	公益社団法人全国工業高等学校長協会	開催要項による	令和6年度全国工業高等学校長協会第72回研究協議会三重大会	6,000	R6. 8. 7
7	第12回全国高等学校保育教育研究大会参加費	全国高等学校長協会家庭部会	開催要項による	第12回全国高等学校保育教育研究大会	3,500	R6. 9. 27
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第2期288名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	14,236,200	R6.10. 31

9	高等学校等就学 支援金	全日制高等学校 授業料（第2期 1月×1名分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	授業料に充当す る就学支援金の 戻入（転学者）	△9,900	R6. 11. 15
10	高等学校等就学 支援金	全日制高等学校 授業料（第3期 285名分）	高等学校等就学 支援金の支給に 関する法律	高等学校に在籍 する生徒の授業 料に充てる	11,286,000	R7. 1. 31
計		10件			34,325,000	

負担金支出調

(令和 7 年度)
(令和 7 年 5 月 31 日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	令和 7 年度全国 高等学校長協会 第 77 回総会・研 究協議会参加費	全国高等学校長 協会	開催要項による	令和 7 年度全国 高等学校長協会 第 77 回総会・研 究協議会	円 4,000	R7. 4. 30
計		1 件			4,000	

建 築 工 事 調

(令和6年度)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	受注者	着 成 (予) 完 定 (予) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘 要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育管理費	令和6年度 静岡県立御殿場 高等学校保健室 空調機更新工事	御殿場市 御殿場 地内	円 990,000	円 988,900	円 0	円 988,900	随契	(株)渡辺工事部	R7.1.6 R7.3.25	円 988,900	保健室空調機更新	済	随契1号(少額) 令達R6.12.10 支払R7.4.28
2	教育管理費	令和6年度 静岡県立御殿場 高等学校本館西 側及び中央トイレ 床改修工事	御殿場市 御殿場 地内	5,940,000	5,918,000	0	5,918,000	指名	(株)オサコー建設	R7.1.14 R7.3.25	5,918,000	生徒用トイレ床乾式化	—	令達R6.12.10 支払R7.4.28
		合 計	2 件	6,930,000	6,906,900	0	6,906,900				6,906,900			
参考 1	教育管理費	令和6年度 御殿場高等学校 バックネット設 置工事	御殿場市 御殿場 地内	70,334,000	68,200,000	2,981,000	71,181,000	一般	(株)山室組	R6.7.19 R7.2.19	71,181,000	野球場バックネット 既存撤去・新設	済	交通基盤部 沼津土木事務所
		合 計	1 件	70,334,000	68,200,000	2,981,000	71,181,000				71,181,000			

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	受注者	着 成 (予) 完 定 (予) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有 財産 台帳	摘 要
					当初額	変更増減額	計							
	該当なし			円	円	円	円				円			
		合 計	0 件	0	0	0	0				0			

公 有 財 産 調 査

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,612,305	/	千円 71,033	/	千円 15,501	/	千円 1,667,837	
土 地	m ² 45,125.46	1,385,996	m ²		m ²		m ² 45,125.46	1,385,996	
立木竹	本 222	3,952	本		本		本 222	3,952	
建 物	m ² 6,690.42 12,911.17	116,146	m ²		m ²	10,015	m ² 6,690.42 12,911.17	106,131	
工作物	個 103	106,211	個 4	71,033	個 2	5,486	個 105	171,758	
普通財産	/	0	/		/		/	0	
土 地	m ² 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00	0	
立木竹	本 0	0	本		本		本 0	0	
建 物	m ² 0.00 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00 0.00	0	
工作物	個 0	0	個		個		個 0	0	
公有財産に 準ずるもの	/	161	/		/		/	161	
電話加入権	5	161					5	161	

公 有 財 産 調 査

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

区 分	令和7年3月31日現在		増		減		令和7年5月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 1,667,837	/	千円	/	千円	/	千円 1,667,837	
土 地	m ² 45,125.46	1,385,996	m ²		m ²		m ² 45,125.46	1,385,996	
立木竹	本 222	3,952	本		本		本 222	3,952	
建 物	m ² 6,690.42 12,911.17	106,131	m ²		m ²		m ² 6,690.42 12,911.17	106,131	
工作物	個 105	171,758	個		個		個 105	171,758	
普通財産	/	0	/		/		/	0	
土 地	m ² 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00	0	
立木竹	本 0	0	本		本		本 0	0	
建 物	m ² 0.00 0.00	0	m ²		m ²		m ² 0.00 0.00	0	
工作物	個 0	0	個		個		個 0	0	
公有財産に 準ずるもの	/	161	/		/		/	161	
電話加入権	5	161					5	161	

借地借家等調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏 名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 240	学校 敷地	学校 敷地	m ² 591.00	円	円	R5.4.1 ～ R10.3.31	(一財)静岡 県立御殿場 高等学校教 育振興会理 事長	建 物 地 敷 地
2	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 237-1	学校 敷地	学校 敷地	110.00			R5.4.1 ～ R8.3.31	御殿場市長	学 校 地 敷 地
3	土 地	学校 敷地	御殿場市 西田中 294-1	学校 敷地	学校 敷地	861.00	440	378,840	R7.4.1 ～ R10.3.31	個人	学 校 地 敷 地
4	土 地	学校 敷地	御殿場市 西田中 293	学校 敷地	学校 敷地	99.00			R5.4.1 ～ R10.3.31	(一財)静岡 県立御殿場 高等学校教 育振興会理 事長	学 校 地 敷 地
5	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 238	学校 敷地	学校 敷地	272.80	440	120,032	R7.4.1 ～ R10.3.31	個人	学 校 地 敷 地
6	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 239-1	学校 敷地	学校 敷地	670.94	440	295,213	R7.4.1 ～ R10.3.31	個人	学 校 地 敷 地
7	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 256-5	学校 敷地	学校 敷地	110.00	440	48,400	R7.4.1 ～ R8.3.31	御殿場市長	学 校 地 敷 地
8	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 192-1地 先	学校 敷地	学校 敷地	34.00			H29.4.1 ～ R9.3.31	沼津土木事 務所長	橋 梁 地 敷 地
9	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 192-1地 先	学校 敷地	学校 敷地	52.70			H31.4.1 ～ R11.3.31	沼津土木事 務所長	橋 梁 地 敷 地

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地目		数量又 は面積	借料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏 名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
10	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 241地先	学校 敷地	学校 敷地	42.00		無償	H31. 4. 1 ～ R11. 3. 31	沼津土木事 務所長	橋 梁 敷 地
11	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 192-1地 先	学校 敷地	学校 敷地	4.00		無償	H30. 4. 1 ～ R10. 3. 31	沼津土木事 務所長	配水管 敷 地
12	土 地	学校 敷地	御殿場市 御殿場 241地先	学校 敷地	学校 敷地	1.50		無償	H30. 4. 1 ～ R10. 3. 31	沼津土木事 務所長	U字側 溝敷地
13	建 物	事務 所建	御殿場市 御殿場 192-1	S造 3階建 生活館		221.94		無償	R7. 4. 1 ～ R12. 3. 31	(一財)静岡 県立御殿場 高等学校教 育振興会理 事長	生活館
						593.20					
14	工作物	冷暖房 装置	御殿場市 御殿場 192-1			1個		4,740,862	R3. 7. 1 ～ R16. 6. 30	三井住友フ ァイナンス &リース株 式会社	普通教 室空調
15	工作物	冷暖房 装置	御殿場市 御殿場 192-1			1個		3,106,239	R6. 7. 1 ～ R19. 6. 30	NTT・TCリ ース株式会 社	特別教 室空調
計								8,689,586			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年5月31日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)										
				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期継続 契 約	静岡県立御殿場高等学校 外4校警備業務委託	御殿場高校外4校 機械警備業務委託 (契約日) 令和元年9月13日	4,874,763	円 471,900	円 943,800	円 943,800	円 943,800	円 943,800	円 627,663					
	静岡県立御殿場高等学校 外5校警備業務委託	御殿場高校外5 校 機械警備業務委託 (契約日) 令和6年9月6日	9,900,000						990,000	1,980,000	1,980,000	1,980,000	1,980,000	990,000
	静岡県立御殿場高等学校 フルカラー高速印刷機 貸借契約	フルカラー高速印刷機 1台 (契約日) 令和6年4月1日	3,300,000							660,000	660,000	660,000	660,000	660,000
	静岡県立御殿場高等学校 コピー機貸借契約	コピー機 1台 (契約日) 令和6年4月1日	277,200							55,440	55,440	55,440	55,440	55,440

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年5月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	御殿場市御殿場192-1	S平屋建 昇降棟		1.00㎡		円 4,560	7.4.1～ 8.3.31	(一財)静岡県立御殿場高等学校教育振興会理事長	自動販売機(パン)設置
2	"	"	"	S平屋建 昇降棟		14.90㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	"	購買業務
3	"	"	"	鉄筋コンクリート3階建 鉄筋コンクリート4階建		9.90㎡		免除	7.4.1～ 10.3.31	静岡県立御殿場高等学校PTA会長	団体職員執務室
4	"	"	"	鉄筋コンクリート4階建		3.30㎡		免除	7.4.1～ 10.3.31	静岡県立御殿場高等学校同窓会長	団体職員執務室
5	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地	12.60㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	"	石碑設置
6	"	"	"	"	"	1.00㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	御殿場市長	道路街路灯設置
7	"	"	"	"	"	0.98㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	"	道路反射鏡設置
8	"	"	"	"	"	0.09㎡		免除	4.4.1～ 9.3.31	"	避難所案内看板設置
9	建物	事務所建	"	鉄筋コンクリート4階建 本館		0.11㎡		免除	3.4.1～ 8.3.31	"	地域防災無線(半固定局設置)
10	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地	0.60㎡		免除	3.4.1～ 8.3.31	"	避難地案内標識設置
11	"	"	"	"	"	0.20㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	御殿場区長	史跡(御殿跡地)看板設置
12	工作物	囲障	"	鉄骨造		0.54㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	"	交通安全看板設置
13	土地	学校敷地	"	学校敷地	学校敷地	電柱3本 支柱1本 支線4条	1,500	12,000	4.4.1～ 9.3.31	東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社長	電気事業及び電気通信事業

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
14	土地	学校敷地	〃	学校敷地	学校敷地	電柱8本 支線5条 支線柱1本	1,500	21,000	4.4.1～ 9.3.31	西日本電信電話 (株) 静岡支店長	電気通信設備維持
15	〃	〃	〃	〃	〃	644.90㎡		免除	7.4.1～ 8.3.31	御殿場市長	市道整備工事
16	〃	〃	〃	〃	〃	4.00㎡		11,000	7.4.1～ 10.3.31	コカ・コーラボトラーズ ジャパン(株) 本 部営業本部 本 部営業地区 統括部 本 部営業地区 静岡支 店支店長	飲料用自動販売機及び 容器回収ボックス設置
17	建物 土地	事務所建 学校敷地	〃	S平屋建 学校敷地	昇降棟 学校敷地	2.00㎡ 2.00㎡		430,500	7.4.1～ 10.3.31	ダイドードリンコ 株式会社 東海営業部	飲料用自動販売機及び 容器回収ボックス設置
合計								479,060			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所 在 地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	借受 財産	御殿場市西田中 294-1	学校 敷地	学校 敷地	電柱 2本	1,500	円 3,000	7.4.1 ～ 8.3.31	西日本電信電話 (株)静岡支店 長	電気通信設 備維持
2	〃	〃	〃	〃	〃	0.09㎡		免除	7.4.1 ～ 8.3.31	御殿場市長	避難地案内 標識の設置
合 計								3,000			

主 要 備 品 調

(令和7年5月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	IoT実習装置	創造工学科授業用 週10時間程度	R4.3	23,364,000 円
2	06-02	金属加工工作機器	金属加工実習装置 普通旋盤1台外	創造工学科授業用 年間40回程度使用	R2. 2	19,778,000
3	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	アパレルCAD	生活創造デザイン科授業用 週4時間程度	R4.3	17,600,000
4	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	商品開発実習装置	創造ビジネス科授業用 週10時間程度	R4.3	16,830,000
5	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	三次元CAD装置	創造工学科授業用 週4時間程度	R3.12	13,915,000
6	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	自動工作シミュレーションシステム CAD用パソコン44台、プリンター外	創造工学科授業用 週10時間程度	H22. 3	13,419,000
7	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	情報応用実習装置 パソコン43台、プリンター外	創造ビジネス科授業用 週24時間程度	H28.10	10,368,000
8	06-02	金属加工工作機器	金属加工実習装置 モデリングマシン1台外	創造工学科授業用 週10時間程度	H28.12	10,152,000
9	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	情報基礎実習装置 パソコン43台、プリンター外	創造工学科授業用 週28時間程度	H28. 2	10,044,000
10	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	ICT環境整備機器一式 パソコン44台、プリンター外	創造工学科授業用 週10時間程度	R1. 8	5,409,180
11	10-06	教育調理器具	調理台及び冷蔵庫 仕様書のとおり	生活創造デザイン科授業用 常用使用	R3.12	4,829,000
12	03-03	プロジェクター	プロジェクター	授業にて使用 常用使用	R3.3	3,506,250
13	01-99	その他の庁用器具	製図器具	創造工学科授業用 年間80回程度使用	H31. 3	3,456,000
14	06-02	せん断機器	電動シャー 明和AS44D	創造工学科授業用 週10時間程度	H14. 3	3,024,000
15	06-99	その他の諸機器	その他の諸機器 レーザー加工機	創造工学科授業用 年間80回程度使用	R2. 3	2,189,000
16	06-02	金属加工工作機器	金属加工実習装置 汎用旋盤	創造工学科授業用 週10時間程度	H8. 3	1,975,562
17	06-02	金属加工工作機器	金属加工実習装置 汎用旋盤	創造工学科授業用 週10時間程度	H8. 3	1,975,561
18	01-01	平机	パソコンデスク 生徒用24台	創造工学科授業用 週10時間程度	H21. 2	1,947,990
19	01-02	台	物理実験台 ダルトン KT-10	物理授業使用 常用使用	H8.3	1,926,100
20	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピューター一式	創造ビジネス科授業用 週10時間程度	R3.3	1,904,109

職 員 調

(令和7年5月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	西川勝啓		□□□□	□年 □月	□□□□
2	副校長	勝又史博		□□□□	□ . □	□□□□
3	教頭	池谷明治	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
4	事務長	古谷知美		□□□□	□ . □	□□□□
5	教諭	小宮和江	国語	□□□□	□ . □	□□□□
6	教諭	金指政将	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
7	教諭	勝又政和	英語	□□□□	□ . □	□□□□
8	教諭	大杉哲也	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□ . □	□□□□
9	教諭	酒井貴則	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
10	教諭	望月美佳	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
11	教諭	山田勝利	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□ . □	□□□□
12	教諭	鈴木章文	保健体育	□□□□	□ . □	□□□□
13	教諭	安藤進次	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
14	教諭	生越寛道	保健体育	□□□□	□ . □	□□□□
15	教諭	菅原尚規	国語	□□□□	□ □	□□□□
16	教諭	中里武彦	英語	□□□□	□ . □	□□□□
17	教諭	三浦路子	英語	□□□□	□ . □	□□□□
18	教諭	佐藤加寿夫	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
19	教諭	竹内久美子	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□ . □	□□□□
20	教諭	立道綾	保健体育	□□□□	□ . □	□□□□
21	教諭	稲月美子	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□ . □	□□□□
22	教諭	牧田晋吾	工業(創造工学科)	□□□□	□ . □	□□□□
23	教諭	村松佑哉	音楽	□□□□	□ . □	□□□□
24	教諭	渡邊太一	数学	□□□□	□ . □	□□□□
25	教諭	内藤英伍	地歴公民	□□□□	□ . □	□□□□
26	教諭	浅井彩乃	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
27	教諭	吉田夏美	国語	□□□□	□ . □	□□□□
28	教諭	加藤風香	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
29	教諭	中村由紀	理科	□□□□	□ . □	□□□□
30	教諭	野田美奈子	数学	□□□□	□ . □	□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
31	教諭	福井由佳	工業(創造工学科)	□□□□	□.□	□□□□
32	教諭	片山蒼紫	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□.□	□□□□
33	教諭	荻野湧矢	理科	□□□□	□.□	□□□□
34	教諭	木村啓人	社会	□□□□	□.□	□□□□
35	教諭	竹ヶ原理奈	工業(創造工学科)	□□□□	□.□	□□□□
36	養護教諭	飯田純子		□□□□	□.□	□□□□
37	養護教諭	相磯りか		□□□□	□.□	□□□□
38	主任実習手	關野理恵子	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□.□	□□□□
39	主査	田村真美子	管財	□□□□	□.□	□□□□
40	主任	植村愛美		□□□□	□.□	□□□□
41	主事	山田みずほ	会計	□□□□	□.□	□□□□
平均年数					□.□	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭	河野浩美	国語	□□□□	□ . □	□□□□
2	教諭	永井直美	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
3	主事	上原香弥	給与	□□□□	□ . □	□□□□
4	外国語指導講師	アマシユカ ポール	英語	□□□□	□ . □	
5	非常勤講師	今村翔人	数学	□□□□	□ . □	□□□□
6	非常勤講師	渡邊麗美	書道	□□□□	□ . □	□□□□
7	非常勤講師	杉山美晴	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
8	非常勤講師	勝又保	商業(創造ビジネス科)	□□□□	□ . □	□□□□
9	非常勤講師	田中悟子	家庭(生活創造デザイン科)	□□□□	□ . □	□□□□
10	非常勤講師	片桐大介	美術	□□□□	□ . □	
11	非常勤労務職員	林和男	用務	□□□□	□ . □	
12	非常勤労務職員	安藤美千代	用務	□□□□	□ . □	
13	非常勤労務職員	門部清	用務	□□□□	□ . □	
14	非常勤嘱託員	吉田明紀	就学支援金事務	□□□□	□ . □	
15	学校医	江島光彦	内科	□□□□	□ . □	
16	学校医	石川昭	眼科	□□□□	□ . □	
17	学校医	齋藤彰治	耳鼻科	□□□□	□ . □	
18	学校医	鎌田耕	歯科	□□□□	□ . □	
19	学校薬剤師	幾田さと子	薬剤師	□□□□	□ . □	
	計	19人				

職員の年齢調

(令和7年5月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	6	
30歳以上40歳未満	7	
40歳以上50歳未満	8	
50歳以上56歳未満	10	
56歳以上61歳未満	3	
61歳以上	7	再任用職員(7人)
計	41	平均年齢45.9歳

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容	(1) 未受診の理由 □□□□□□□□
受 診 状 況	受診者数 41 人 職員数 42 人	
受 診 率	100.0 %	
県平均受診率	100.0 %	

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人 () 人
C 2		要経過観察	人 () 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	14 人 (14) 人
D 2		要経過観察	13 人 (13) 人
D 3		医 療 不 要	12 人 (12) 人
区 分 者 計			12 人 (12) 人
未区分者数			2 人
合 計			41 人

(1) 管理区分A～C 2 該当者
に対する措置状況
□□□□□□□□□□

(2) 未区分の理由
 ア 産休・育休 □人
 イ 新規採用 □人
 ウ 自己都合による未受診 □人
 エ その他 (□□) □人